DJ-PB20/27 セットモードの拡張について

DJ-PB20/27 特定小電力トランシーバーには、普段の使用には余り必要が無くても環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を拡張セットモードに持たせております。
通常の設定項目にしなければならないほどには頻繁に使われない上､意味が分かってお使い頂かないと電池を早く消費したり､｢故障かな？｣と思うような動作をしたりする可能性があるので、これらは下記のボタン操作にてセットモードの拡張を行った後に設定画面に現れるようになっており、敢えて取扱い説明書には記載しておりません。
これら拡張メニューはパラメータ変更後に再びメニュー表示を隠すことと、完全初期化（通常のセットモード、チャンネル設定なども含めた全てを工場出荷状態に戻すリセット）が可能です。
拡張方法は、本書の最後に記載しています。増えた項目は、通常のセットモード項目の後ろに続けて表示されます。

［拡張後に使えるセットモード項目］
１：スケルチレベル(Sq)
設定値 0～5（初期値 3）
ＦＭ電波特有の、通話が無いときに聞こえるホワイトノイズを消す「スケルチレベル」の調整。
工場設定で標準的なレベルに調整してありますが、ノイズが強い環境などで、通話していない時でもスケルチが開きカサカサと音が出る場合にレベルを上げると静かな待ち受けが可能になりますが､弱い通信信号も消してしまうため通話距離が短くなるように感じられることがあります。
逆にノイズが低い環境では､レベルを低めに設定することで弱めの信号でも受信しやすくなる場合があります。レベルをゼロにすると、常にザーというノイズが聞こえるようになります。
尚、DJ-PB20/27 のホワイトノイズにはパリパリ…といったノイズが混じりますが、使用している部品の仕様によるもので、異常では有りません。

２：キーロック設定に入るまでのボタンを押す時間(Lt)
設定値 1～5 秒 （初期値 2 秒）
通常は指定のボタンを２秒押すとキーロックが掛かりますが､このタイミングを１～５秒の間で変更できます。

３：バッテリーセーブ(bS)
設定値 ON／OFF （初期値 ON）
電池消費を最小にするバッテリーセーブ機能は､僅かですが通話の始めの部分が途切れる原因の一つになる場合があります。これを少しでも軽減するためにここでＢＳ設定を解除できますが、電池の消費が早くなるためご注意ください。劇的な効果が期待できる設定値ではありません。

４：電池電圧表示
何かを変えられる項目では有りません｡拡張後このメニューに合わせると､お使いの電池のおよその電圧を表示するので電池残量チェックとしてお使いになれます｡テスターのような精度ではありませんので目安とお考えください。

５：マイクゲイン調整(mG)
設定値 1～7 （初期値 4）
通話時の癖やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で､人によって無線機に入る声量は異なります。このため、音が小さい（話す声が小さい＝レベルを大きくする)、音が歪む（声が大きい＝レベルを小さくする）等の場合に調整できるようになっています。お使いになるイヤホンマイクによってもレベル調整が必要になる場合があります。

６：デュアルオペレーション再開時間設定(dt)
設定値 1～5 （初期値 5 秒）
デュアルオペレーションモードにて通話終了し交互受信が再開するまでの時間を変更できます。通常は通話終了から 5 秒経過後に交互受信が再開されますが、交互受信の再開時間を 1～5 秒に変更できます。通話終了からすぐに交互受信を行いたいときは設定値を小さくしてください。

７：オプション使用時での本体 PTT・本体マイク設定(iPt)
設定値 OFF／Ot／AL （初期値 OFF）
オプション（イヤホン・スピーカーマイク等）を本体に接続して使用する際に、本体 PTT と本体マイクの有効／無効を設定変更することができます。使用するオプションに合わせて設定してください。

OFF ：本体 PTT 無効・本体マイク無効
Ot ：本体 PTT 有効・本体マイク無効
AL ：本体 PTT 有効・本体マイク有効

※ “Ot”“AL”でスピーカーマイクを使用する際、本体 PTT を押してもスピーカーマイクからの音声を送信することはできません。スピーカーマイクを使用する際はスピーカーマイクの PTT を押して送信してください。

８：緊急通報時間設定(tEG)
設定値 10～60 （初期値 10 秒）
通常は緊急通報のアラーム鳴動時間と送信時間は 10 秒に設定されていますが、この時間を 10 秒単位（最大 60 秒）で変更することができます。

９：秘話通信周波数(FSC)
設定値 27～34 （初期値 34：3.4KHｚ）
秘話のキャリア周波数を設定します。秘話で通信する際、周波数が一致していないと通信音声の内容が聞き取りにくくなります。初期値以外の周波数を使用したい場合は設定を変更することができます。

１０：減電池アラーム設定(Cbt)
設定値 OFF／5～60 秒 （初期値 OFF）
本体の電池が消耗するとディスプレイ右上の電池マークが点滅し、アラームを鳴らして減電池をお知らせします。このとき減電池アラーム設定を 5～60 秒に設定することで、設定時間ごとに 1 回、電池が減っていることを「ププッ」音でお知らせします。但し、電池が減っている状態で音を鳴らして知らせるため間隔を短く設定するほど早く電池が切れてしまいます。

１１：グループ種類切り替え設定(Gr)
設定値 tn／Cd　(初期値 tn)
DJ-PB20/27 のグループトークは通常のトーンスケルチの他に DCS (デジタルコードスケルチ) に切り替えることができます。グループ種類切り替えを Cd に設定し、通常のトーンスケルチと同様に通常画面で GROUP キーを押すことで DCS を設定することができます(トーンスケルチの場合、チャンネルとグループの間に［- ：ハイフン］が表示されますが、DCS の場合は[- ：ハイフン]が表示されません)。グループ番号を変更する場合はトーンスケルチと同様に FUNC を押しながら▲ 、▼で変更（01～83）することができます。

１２：VOX 送信持続時間設定(tvo)
設定値 01～30　(初期値 10：1.0 秒)
VOX 機能を使用して送信したとき、通常は音声が入っていなくても 1 秒間は送信し続けます。これにより、VOX 送信中に一呼吸おいて話しても送信は途切れることなく通信することができます。VOX 送信持続時間を変更することによりこの時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更することができます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときは、設定を短めにすることをお勧めします。

１３：チャンネル表示設定(CH)
設定値 AL／no／OFF　(初期値 AL)
DJ-PB20/27 の通常のチャンネル表示は L01～L09、b01～b11 と表示されます。チャンネル表示設定を no に変更することで 01～20 表示に変更することができます。

AL	no
b01～b11	01～11
L01～L09	12～20
b12～b29（中継）　**※DJ-PB27 のみ**	01～18（中継）　**※DJ-PB27 のみ**
L10～L18（中継）　**※DJ-PB27 のみ**	19～27（中継）　**※DJ-PB27 のみ**

また、チャンネル表示設定を OFF に変更することでチャンネルを非表示に変更することができます。(チャンネル、グループ番号は設定直前の状態で保持されます)
チャンネルを非表示にしているときはチャンネル変更、グループ設定の変更ができません。チャンネル変更、グループ設定する場合はチャンネル表示設定を AL または no に変更してください。

１４：トーン受信設定(to)　tnと表示されるときは巻末をご覧ください。
設定値 nL／SP　(初期値 nL)
グループトークでのトーンの受信精度を調整することができます。グループトークでトーンが受信しづらい場合、この設定を“SP”に変更することでトーンが受信しやすくなり、トーンでの受信音声を途切れにくくすることができます。
但し、“SP”に変更することにより、隣接するグループ番号（トーン周波数）を受けやすくなります。また、受信終了時に「ザッ」音が聞こえてしまいます。

[セットモード拡張の方法]
１：キーロックを掛ける。（２つあるうちの、どちらの方法でも可）
２：グループキーを５回連続で押す。10 秒以内に 5 回押さないと有効になりません。キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープ音が鳴ります。
３：自動的にキーロックが解除されます。
４：セットモードに入ると上記のメニューが追加されています。
＊ 変更した値を保存して拡張メニューを隠すには、上記１～４の操作を繰り返します。
＊ チャンネルや通常のセットモードで設定したパラメータも含め全てを工場出荷状態まで初期化するには、電源を切った後フロントパネル上のボタン▼、FUNC、GROUP の３つを押した状態で電源を入れます。全ての設定がリセットされ、工場出荷状態に戻ります。
＊ 説明書に記載のリセット（初期化）方法では拡張セットモードは閉じず、設定した値も初期化されません。拡張セットモード以外の部分は工場出荷状態に戻ります。

以上
アルインコ（株）電子事業部

拡張セットモードの追加

拡張時のセットモードの項目に変更や追加がございました。

トーン受信設定　(tn)
設定値to-1からto-5（初期値to-2）

従来、nL、noL, SP1, SP2等であった「tn」項目の更新です。同じグループトーク番号に設定しているのにスケルチが開かない場合、このパラメータを変更することでトーン判定精度が甘くなり、問題を解決できることがあります。「tn-1」が従来の「noL/nL」と同じで一番厳しく（読み取り精度が正確）、「tn-5」に近いほど甘くなるのでグループ番号が合致しなくてもスケルチが開く率が高くなります。 また、「tn-2」以上ではスケルチが閉じるときに「ザッ」音が聞こえるようになります。（テールノイズキャンセル機能が働かなくなります。）